

戦 評

大会名 令和元年度天皇杯皇后杯全日本バレーボール
選手権大会岩手県予選会

岡崎建設Owls 2 { 25 — 17
30 — 28 } 0 盛岡南高等学校

試合時間 0 時間 49 分

主 審 山根 寿

副 審 塩井 和幸

戦 評

第1セット岡崎建設Owlsが8番花坂のトスから多彩な攻撃を繰り出し、

リードを広げる。対する盛岡南高等学校は3番澤口の速攻やブロック

で反撃を試みるが、岡崎建設のリズムを崩すには至らず、第1セット

は岡崎建設が先取した。

第2セットも岡崎建設がリードするが、盛岡南高は2番川村、11番櫻

田のスパイクなどで逆転し、最初にセットポイントを握った。しかし、

地力に勝る岡崎建設が最後は15番鎌田、17番太野の連続スパイク

ポイントで2セット目も連取し4年連続6度目の優勝を飾った。

※ 7～10行にまとめること。

戦評者 手島 瑞夫

岩手県バレーボール協会

戦 評

大会名 令和元年度天皇杯皇后杯全日本バレーボール
選手権大会岩手県予選会

盛岡誠桜高等学校 2 { 29 — 27
22 — 25
25 — 19 } 1 ZERO

試合時間 1 時間 28 分

主 審 佐々木 良子

副 審 米田 寿

戦 評

3年連続8回目の優勝を狙うZEROと初優勝を目指す盛岡誠桜との決勝となった。

第1セット、ZEROは5番小玉・4番佐藤のスパイクでリードする、一方盛岡誠桜

は2番本郷・1番奥山のレフトを中心とした攻撃が決まりジュースの接戦を制し

第1セットを先取した。

第2セット、序盤からZEROは1 3番阿部の中央からの攻撃が決まり大きくリード

する。中盤盛岡誠桜も追い上げるが、ZEROは5番小玉のスパイクが決まり

第2セットを奪い返した。

最終セット、盛岡誠桜は1番奥山がスパイク・サーブに活躍しリードを広げるが、

ZEROは1 3番阿部の中央からのスパイク、1 4番野澤のサービスエースで食い下

がるも、最後は盛岡誠桜2番本郷のスパイクが決まり第3セットを奪い初優勝を

飾った。

※ 7～10行にまとめること。

戦評者 佐山 国央

岩手県バレーボール協会